



ペット関連商品は3000種  
知識がなければ、できない仕事

IR貨物の集配や引越越し、および企業のチャーター便などをメインに輸送業を展開していたセブンは、ペットの輸送をはじめようになつたのは25年ほど前のことである。高岡社長が、あるペット問屋の社長と出会つたことがきっかけだった。

互いに動物好きだったこともあり、意気投合して、すぐにペット関連の仕事を引き受けるようになった。

はじめのころは、ペットの種類も関連商品の量も少なく、売り上げも多くはなかつた。ところが、その後、ペットの需要が高まるにつれ、関連商品の配送量が年々右肩上がりを続け、いまや年間売上の60%を占めている。取引先も、全国でも有数の卸し問屋といわれるまでに、ともに躍進した。

「取り扱っている関連商品は約3000種類もあるんですよ」

川崎と横浜の2か所にある卸し問屋の物流センターで積み込み、関東各地のペットショップ、デパート、スーパー、ホームセンターなど、納品先の約12000店舗に毎日配送している。

10数台だった車両も、ペットや、関連

## キャビンのルーフが高い! 室内が広い! 新型キャンターは ドライバーの理想の車だ!

### 株式会社 セブン

空前のペットブームだという。ペットショップばかりか、近ごろは、ドラッグストアや家電量販店のなかにも犬、猫、小鳥、熱帯魚などの小動物を売る店が現われている。神奈川県川崎市の中原区に本社を置く株式会社セブンは、年間売上の60%がペットおよびペット関連商品の配送で占められている。新型キャンターをはじめ、29台もの三菱キャンターが、ペット商品の配送用として、文字どおり大車輪の働きを見せている。

商品を配送するようになってから徐々に増やしていった。いまでは小型車を中心に、35台を数えるまでになった。

「まさに倍々ゲームのようですね」

高岡社長の顔も自然にほころぶ。無理もない。なにしろペット関連産業は、いまや「1兆円産業」といわれるまでのブームなのだ。当然、誰もがこの仕事に飛びつきそうなものだが、「そうは問屋が卸さない」。

「相手は生き物ですからね。あつかう動物の習性や輸送上の知識、注意点、さらには、約3000種類におよぶ少量多品種の関連商品に対する知識など、これらをすべて心得ていなければ、この仕

### 株式会社 セブン

- 本社/神奈川県川崎市中原区宮内
- 代表取締役/高岡由幸
- 設立/昭和43年
- 社員数/40名 ●保有車両/35台

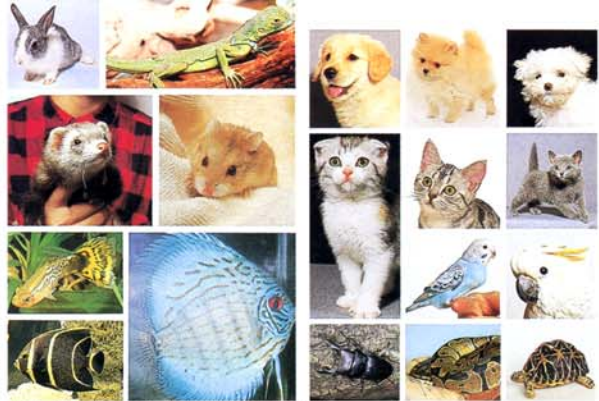


納品先のペットショップの多くは繁華街にある。大型車、中型車では進入できない道もあり、混雑する商店街では通行人の迷惑になる。そのため、車両ラインナップは2t車、3t車が中心となった。車両の後部ドアはすべてシャッター式である。高岡社長は「観音開きだとドアが風でホデーに打ちつけられ、その物音でペットが驚いてしまふこと説明する。ペット輸送は、動物に対する愛情や、思いやりなくしてはできない仕事なのである。」



高岡由幸社長





セブンがあついている動物たちの種類はいろいろ



ペット関連商品は3000種。覚えるだけでも大変だ!



ドライバーの今野さん(左)と徳里さん



### ペットは環境に敏感だから ナビ・システムで集中管理

高岡社長には、日ごろから社員にくり返し語りかけている言葉がある。「勤めているのは運送会社ではなく、ペットショップだと思つてほしい。そして、納品先の店員さんに負けないくらいの、高岡社長には、日ごろから社員にくり返し語りかけている言葉がある。返して語っている言葉がある。25年前に比べれば、ペットの種類も、その関連商品も驚くほど多種多様になっている。そのため、ペット輸送と、関連商品に欠かせない知識の徹底を図るため、ドライバーを根気よく、3年、4年がかりで育ててきた。

高岡社長には、日ごろから社員にくり返し語りかけている言葉がある。「勤めているのは運送会社ではなく、ペットショップだと思つてほしい。そして、納品先の店員さんに負けないくらいの、

ペットに対する深い愛情と幅広い商品知識を持つてほしい」と。

ペットは環境の変化に敏感だ。だから、一定の時間内に輸送し、より快適な環境下に置いてやらなければならない。

その対策として、3年ほど前に、全車両にGPS(全球測位システム)によるナビゲーションシステムを搭載した。車両の現在位置、作業内容などを本社で集中管理できる体制を完備したのである。

システムの導入には、大型トラック1台ぶんもの経費がかかった。しかし、それだけの費用をかけた価値は十分にあったという。昨年、導入した4台の新型キャンターにも、ナビゲーションシステムが搭載されている。

「創業して以来、車両は全部三菱ふそうです」という高岡社長に、そのわけをうかがった。

「なんといつても、丈夫で長持ち。ことにエンジンの耐久性は素晴らしい。代替え期は35万kmを目安にしていますが、この間、一度として故障したことがない。ペットにとつても、最適な輸送環境になっています」とのことだった。

新型キャンターは、キャビンの天井が高く、室内がひろいので、とくに体が大きい若手ドライバーには最適な小型トラック、と絶賛した。

ドライバー歴11年の今野光治さん、同10年の徳里武治さんは、インパネシフトの操作性のよさを、まずたたえた。

「スプリングがしっかりしていて、パワーがある。足腰が強いので安心して乗っていられる。それに、乗用車的でトラックという感じがしませんね」

「室内は静かだし、居住性も申し分ない。パワーがあつて、荷物が多くても坂道を苦もなく登ってしまう。視界、居住性ともいいので、長時間運転していても疲れが少ないですねと、それぞれ語った。

そして、高岡社長は最後に、こうつくわえた。「新型キャンターこそ、私が長いあいだ、頭に描いていたクルマです」